

進捗報告書（実行団体）

事業名:	コロナの影響を受けた障がい児の支援事業
資金分配団体:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	任意団体 はまどおり大学
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	福島県いわき市
事業対象者:	子どもや子育て中の親、支援事業関係者

Version 1.2

日付: 2021年3月22日

I. 事業概要

事業概要
<p>本事業では、コロナの影響下にある障がい児のサポートのため、以下の4つの取り組みを柱とする。</p> <p>具体的には、子どもへの直接支援と、子どもを取り巻く大人支援の事業である。子ども自身が自分の身を守れる手助けのための人権教育や、子どもに関わる大人に対する人権教育、そして困った状況にある親が助けを求めやすい環境を作る。環境整備のためには、支援するサポートメンバーの育成が必須である。</p> <p>本事業については、いわき市障がい福祉課との連携、放課後デイサービスを利用している家庭へのチラシ配布、支援学校や各学校の支援学級へのチラシ配布、福島県浜児童相談所との連携などを通して、障がい児や困難な状況に置かれた子どもたちとその保護者にリーチし、取り組みを行う予定である。</p> <p>①子どもたちへの「子どもの権利」教育の勉強と対話の会 ②大人への人権、障がい、虐待、教育などについての勉強と対話の会 ③精神障害などの、カウンセリングサポート（チームでの対応） ④サポートメンバーの人材育成</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>④のサポーターや支援者側向けの勉強会などを重点的に実施してきたことで福祉領域横断でのネットワークが繋がり、広報などでも協力を得られるようになってきている。①②③子どもや親を対象にした勉強と対話の部分を進めるのが難しい半年だったが、はまちるの活動を少しずつ知ってもらっているので、残りの半年は子育て世代に直接繋がる企画を増やしたり、学校との連携を進めて当事者と繋がり支援する段階へと進める見通しである。</p>

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>①・②子対象、親対象共に月1回、オンライン若しくは対面で行うことにより、子どもの権利への理解が親も子も深まり、虐待や不適切な養育が防がれている状態。</p> <p>③週3回、カウンセラーや支援者によるカウンセリングを行うことにより、心身の課題を抱える子達の課題が可視化・共有化されて適切な支援に結びつくなど、心のケアができていく状態。</p> <p>④本事業を通してスキルを身につけていったサポートメンバーが、子や親からの相談などに適切に対応できている状態。</p>	<p>①・② 親子の勉強・対話の会はコロナ禍の影響により関係先の子どもを対象に2回の開催にとどまった。支援学級の教師などから学校現場での話を聞くなど学校と連携するための準備を進めてきたので4月以降は学校と連携し、ワークショップなど実施する計画。</p> <p>③ 不登校・ひきこもりの高校生世代の男子2名が毎週1回スクールカウンセラーによるカウンセリングを受けている。子育てや家庭の悩みを抱える女性(とその子ども)のカウンセリングは合計8名の利用があり、継続してカウンセリングを受けている人もいる。カウンセリングが必要な人にもっと利用してもらえるように広報やイベントでの宣伝、口コミでの紹介、チラシの配布に力を入れていく。</p> <p>④主に支援者側へのスキルアップとして毎月2回程度の勉強会を開催し、セーブ・ザ・チルドレンさんによるセーフガーディング講習も受講した。毎回、今まで聞いたことが無い話が聞けて勉強になり、自分の仕事にも活かしているという感想が出ている。放課後等デイサービスのスタッフ全員が受講し子どもを叱らないようになったため、子ども達が安心してのびのび振る舞うようになるなど変化が見られている。</p>

活動	進捗状況	概要
①②親の勉強・対話の会 子の勉強・対話の会	遅延あり	<ul style="list-style-type: none"> ●子を対象にした勉強・対話の会は3月までに2回(認知行動療法ワークショップ(4人参加)、子どもの権利を考えるワークショップ(22人参加))実施。今後は学校と連携し、6回実施、100人程度の参加を目指す。 ●親を対象にした勉強・対話の会は実施できていない。(はまちる勉強会の方にも親など当事者や当事者の身近な人の参加が増えて来ている。)今後は対話の会を3回実施、50人程度の参加をめざす。
③カウンセリングサポート	遅延あり	<p>カウンセリングの利用実績は60回程度、10人。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●不登校・ひきこもりの高校生世代の男子2名が毎週1回ずつスクールカウンセラーによるカウンセリングを受け、毎回休まずにカウンセリングを受けに来ることができるようになっている。 ●子育てや家庭の悩みを抱える女性(とその子)のカウンセリングは合計6世帯、8名の利用があり、継続してカウンセリングを受けているのが現時点で4件ほど。(カウンセリングを重ねアドバイスを受けたことにより、学校や地区の相談センターに相談して虐待や不登校が解消しカウンセリングを要しなくなった母娘が1件)。コロナ禍により友達などと話す機会が無くなって悩みを1人で抱え込んでいる女性が増えている。話すことで頭が整理されるなどの効果があり、次のアクションを踏み出せるようになっているようである。 <p>カウンセリング希望者が増えるように広報に一層力を入れて新規の利用5件/月程度をめざす。</p>
④サポートメンバーブラッシュアップ会	計画通り	<p>サポーターメンバーや支援者側のスキルアップとしてははまちる勉強会(計6回とフォーラム1回)と内部勉強会のセミナーや講習会による学び(計6回)、セーブ・ザ・チルドレンさんによるセーフガーディング講習とそのスキルアップ講習(計2回)を実施。支援者側の参加が多いが少しずつ当事者やその関係者の参加が増えているので、悩みを抱える当事者に繋がってカウンセリングを受けてもらうための入り口としても機能させてしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はまちる勉強会とフォーラムの参加者数と満足度 10月 50名ほど参加(アンケート実施無し)、11月 25名参加/98.3点(アンケートの100点満点採点回答者6人)、12月 45名参加/89.2点(15人)、1月 34人参加/86.1点(14人)、2月 47人参加/84.2点(22人)、3月 43人参加/89.5点(10人)、フォーラム 67名参加/87.5点(16人)

IV. 事業実施後(1年以降)に目標とする状態への所感(中間時点)

自由記述
<p>これまでの半年では支援者側への勉強会を重点的に実施してきたため、福祉領域横断のネットワークはできてきたが、子育てや子どもの障がいなどに悩む当事者への支援はまだ足りていない。障害を持つ子の親もまた障がい者であることが多いため、勉強会を含め各種のイベントには本当に困っている当事者の参加は難しいことを実感している。</p> <p>当事者に直接繋がることは難しくても、より多くの人にはまちるの活動を知ってもらうことで、間接的に当事者の親子にも繋がりがやすくなると考えており、はまちる勉強会も徐々に当事者やその身近な方の参加が増えてきた。情報発信はFacebookを中心に行っていたが、3月より子育て世代の利用が多いInstagramによる情報発信も開始した。また、カウンセリングルームがある建物の1階では関係団体がカフェをオープンさせたので、今後ママカフェイベントなどを柔軟に開催できるようになるため、ママ友からの口コミなどから当事者をカウンセリング利用へ繋ぐ入り口にもできると考えている。今後、支援者側のより一層の連携強化と並行して1人でも多くの当事者が支援に繋がることを重視して活動を継続していきたい。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥3,667,000	¥3,737,000	¥7,404,000	¥1,369,842	19%
	管理的経費	¥486,000	¥486,000	¥972,000	¥360,000	37%
合計		¥4,153,000	¥4,223,000	¥8,376,000	¥1,729,842	21%

補足説明	これまでの立替分を3月中に精算を進めているところなので、現時点での執行率は少し低い数字
------	---

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

事業開始時期には一旦落ち着いていたコロナの感染状況が11月に入ってから増加の一途を辿り、特に12月の中旬以降はいわき市内では行動の自粛が求められる厳戒態勢となったためにイベントなどの開催が難しくなってしまった。はまちる勉強会は仕事の延長のような形で参加する支援者側が主なターゲット層なので、感染対策を実施した上での小規模開催ということと、オンラインでの配信を組み合わせることで10月から継続できたが、親子向けの勉強・対話の会については、当事者側や学校などは不要不急なイベントなどの参加や開催に慎重なため開催のタイミングを見計らってきた。これまで半年のはまちるの活動は新聞などにも掲載され、少しずつではあるが地域でも認知されるようになってきている。教師とのネットワークもできているので子ども向けの勉強会の実施には学校と連携して進められると考えている。手始めに、いじめについてのワークショップなど、学校からのニーズがある内容の勉強会を4月以降の開催を目指して準備を進めている。また親を対象にしたイベントや勉強会は併設のカフェやカウンセリングルームを活用して定期的に開催していく計画である。

VII. その他

自由記述

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)		福島民報社、福島民友社、いわき民報社への開催記事掲載、いわき市記者クラブへのプレスリリース いわき芸術文化交流館ALIOSの子育て支援フリーペーパー「キッズアリベ」へイベント予定やはまちる一む紹介記事の掲載 はまどおり大学はまちるウェブサイト、Facebook、Instagramによる情報発信
広報制作物等		はまちる勉強会チラシ、はまちるフォーラムチラシ、はまちる一むチラシ、はまちる一むリーフレット制作
報告書等		

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。		はまどおりさんは該当しないので記入なしで大丈夫です。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置している。 窓口については研修やメールでの案内と事務所内への掲示で周知し、随時報告などを受けている。